



令和3年度 公益財団法人櫻谷文庫 事業計画

基本的考え方

櫻谷文庫は、木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。また、建造物3棟は、国登録有形文化財、京都市景観重要建造物、京都市指定有形文化財に登録、指定されている。収蔵品については、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての陽明学朱子学関係日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や、近代美術関係資料など一万点以上からなる。建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアートル学園等と連携し、教育活動の推進のため協力、支援をすすめる。

2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症の流行次第ではあるが、本年秋にはあるレベルでのパンデミック収束を前提に、感染防止処置を徹底するなかで、秋に開催される予定の泉屋博古館、福田美術館、嵯峨嵐山文華館での櫻谷作品が展示される企画展、櫻谷文庫の建造物が紹介される京都市美術館の企画展に協力、連携し、櫻谷文庫の展示公開を実施する。

公益目的事業

(1) 2021年秋の櫻谷文庫公開展示 (共催)

秋の「福田美術館」、「嵯峨嵐山文華館」の木島櫻谷展(仮)と連携して公開・展示する。

期間 10月23日(土)～11月28日(日)の土日祝(14日間)

公益収入 588,000円

(内訳) 入場料 600円×70人/日×14日=588,000円

公益支出 492,600円

(内訳) 人件費 14日×5人×6,500円=455,000円

事務用品費 11,200円

通信費 12,600円

旅費交通費 7,800円

雑費 6,000円

(2) 櫻谷文庫の随時公開1. (独自)

京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技



実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アトリサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習、衣笠小学校社会科見学など教育・研究への協力、併せて京都市MICE推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

公益収入 120,000 円

(内訳) 大学講義演習関係 50,000 円 文化財マネージャー育成講座 20,000 円 他映像制作協力関係 50,000 円

(3) 櫻谷文庫の随時公開 2. (独自)

随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。

公益収入 50,000 円

(4) 櫻谷文庫所蔵品の美術館等で企画される展覧会への貸出し

・福田美術館・嵐山嵯峨文華館「木島櫻谷展(仮)」 櫻谷作品 27 点ほか 10 月 23 日～1 月 10 日 300, 000 円

・京都市美術館「モダン建築の京都展」 古写真資料か 10 点 9 月 25 日～12 月 26 日 60, 000 円

(5) 櫻谷文庫収蔵品の調査・整理データベース化 (共同)

① 書簡等

数千点以上の書簡類等の整理、調査、スキャンを継続する。なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の 2 名で実施する。

② 画材

・京都市立芸術大学芸術資源研究センターのプロジェクト「絵具に問う」(プロジェクトリーダー：高林弘実(美術学部准教授)、共同研究者：宇野茂男(京都市立芸術大学美術学部教授)、竹浪遠(京都市立芸術大学美術学部准教授))に協力する。

プロジェクト「絵具に問う」とは：絵画を彩る絵具は、画家が描いた痕跡である。よって我々は、画家が用いた材料や技法、表現の意図、画家がおかれていた状況などを絵具に問うことができる。本プロジェクトは、絵画からより多くを学ぶ環境を整えることを目的とし、保存修復専攻の研究活動によって得られた絵具に関する調査データのアーカイブを目指す。

・地方独立行政法人京都市産業技術研究所・京都市立芸術大学の共同



研究「木島櫻谷の遺品である絵具の化学分析と解析を通して、近代日本画における天然原料と合成原料の彩色材料の変遷や体系化」に協力する。

(5) 建築物の修復保全等

洋館、外壁、屋内の劣化部分の修復工事を検討する

(6) 地域、美術系、学術教育、メディア連携と櫻谷文庫情報の拡散（独自）

等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館他美術系法人、地域の北区役所地域力推進室まちづくり推進担当、立命館大学、等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟他との連携、京都への来訪者の多い首都圏での PR 強化のため京都市東京事務所、京福電気鉄道、JR 西日本京都交流推進委員会、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会（京都駅観光総合案内所を含む）、京都新聞社、KBS 京都、NHK 他との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなく Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信による情報拡散を図る。

(7) 所在不明の櫻谷作品の所在調査

櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を 15 年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品のうち、今秋福田美術館で開催の櫻谷展で「驛路の春」、「たけがり」、「婦女四趣」、「遅日」、「灰燼」が展示されるが、「暮雲（大阪歴史博物館所蔵）」、「行路難（京都国立近代美術館蔵）」以外の所在が不明の「涼意」、「うまや」、「港頭の夕」、「孟宗藪」、「松籟」、「獅子（えもの）」について調査を継続する。

(8) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする整美体操教室（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として提供する。

その他の事業として学校法人ヴィアートル学園との連携による教育支援活動を行う。洋画家浜哲郎氏に制作室として提供していた和館の一部について、教育、地域、美術芸術関係の活用を検討する。